

第1学年 学級活動（2）学習指導案

平成25年1月31日（木）第5校時

児童数6名（男子3名 女子3名）

1. 題材 自分で自分の身を守るには

2. 題材について

本年度、本校は「自分の命は自分で守る」を合い言葉に、防災に関する学習に取り組んでいる。低学年の防災教育指導目標として①友達や身近な人々への関心を深め、学校や校区にある安全な施設について理解すること、②友達や身近な人と仲良く行動できる態度を育てることをあげている。学習指導要領、特別活動編において、学級活動（2）ーカ「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」では、安全指導として『防犯を含めた身の回りの安全、交通安全、防災など自分や他の生命を尊重し、危険を予測し、事前に備えるなど日常生活を安全に保つために必要な事柄を理解し、進んで決まりを守り、危険を回避し、安全に行動できる能力や態度を育成する』必要性が述べられている。

本学級の児童は、これまで生活科の学習を中心に、学校探検、校区探検を行ってきた。校区探検をする中で、児童は地震が起きたときにブロック塀の側や家の側などが危険な場所であることを知り、たくさんの危険な場所や地震に関する標識などを意欲的に見つけてきた。また、道を歩いているときやブロック塀の側にいるときに地震が起きた場合は、近くの空き地や駐車場など広い場所に素早く避難することが命を守ることにつながることを確認し、町の中の安全な場所（広い場所）も探すことができた。そして、調べたことや分かったことを絵地図や防災マップなどにまとめてきた。また、月1回の避難訓練や起震車体験、地域の人の震災体験の話、防災キャラクターや防災標語づくり、防災カルタ作りなどの学習を通して、地震や津波に対する防災への関心も高まってきている。

1月の避難訓練で児童は、教室以外の場所で地震速報を聞き、各自がそれぞれの場所から避難をした。事後指導の中で、図書室にいた児童から「本棚が倒れるかもしれないと思ったら怖くなった」等の意見が出されたことから、教室以外の危険な場所や危険な箇所を見つけ、そこからどのように避難すればよいか学習することにした。しかし、これまでに教室で地震が起きたことを想定した避難訓練では、児童は、すぐに机の下に隠れることができていたが、教室にある窓ガラスが飛び散り、扇風機や蛍光灯などが上から落ちてくるなど、教室の中にも危険な箇所やものがたくさんあり、自分たちの命を脅かすものであるという認識は十分ではない。そこで、学校の中でも特に児童が一番長くいる教室に目を向けさせ、教室で地震が起きた場合を想定して、危険から身を守るにはどうすればよいかを話し合わせたいと考え、本題材を設定した。

本時の学習では、教室で揺れが起きた時の危険な箇所を見つけさせるとともに、けがを少なくするための教室の環境についても考えさせていきたい。そして、危険から身を守るにはどうすればよいか行動化できるようにさせたい。

3. 題材の目標

- ・教室で地震が発生した時の危険な箇所を見つけ、けがを少なくし安全な教室にする方法を考えることができる。

4. 防災教育上のねらい

- ・教室の危険な箇所を積極的に探そうとし、安全な教室にする方法を考え、安全な生活を送ろうとすることができる。
- ・安全な生活を送るために自分たちにできることを考え合うことができる。

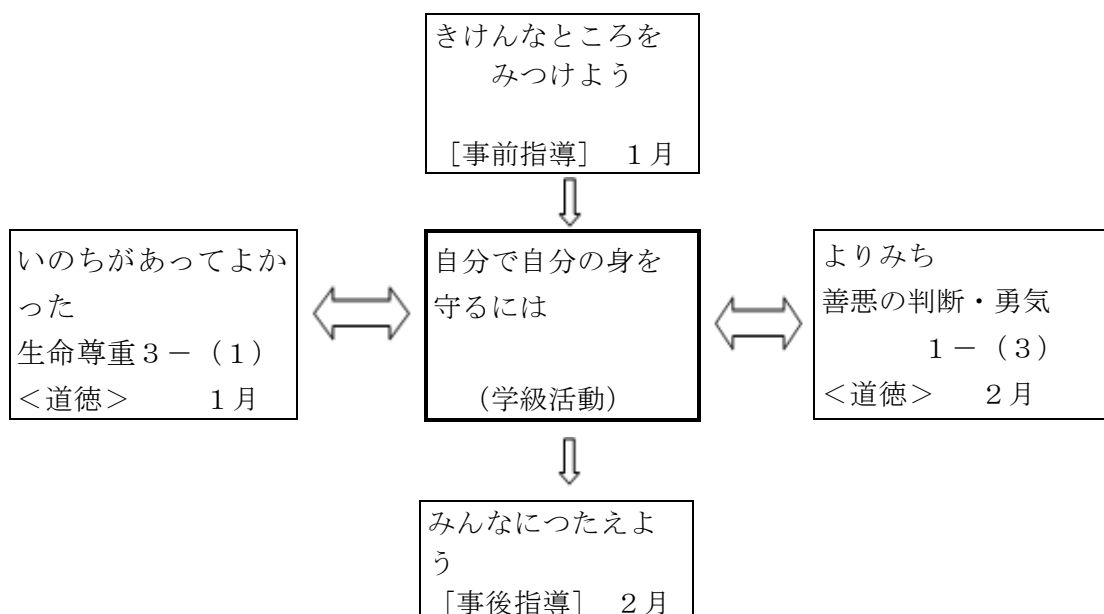
5. 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての知 識・理解
・地震が起きたことを想定し教室の中の危険な箇所を積極的に見つけようとしている。	・地震が起きたときの教室の危険な箇所を安全にする方法を考えている。	・地震が起きたときの教室の危険な箇所を知り、けがを少なくする方法を理解している。

6. 指導計画

学習活動	主な学習内容
学校の様々な場所で地震が起きた場合の危険な場所や避難の仕方について考える。 (事前指導)	① 学校の様々な場所で地震が起きたことを想定した避難訓練をする。(1月避難訓練実施) ② どのようなところが危険なのか考える。 ③ けがを少なくするためにどうすればよいか考える。 ④ 避難の仕方を考える。
地震が起きた場合の教室の危険箇所を見つけ、安全に生活するためのアイデアを考える。 (本時 1時間)	① 地震が起きたときの教室の危険箇所を見つける。 ② なぜ危険なのか考える。 ③ けがを少なくするための安全な教室環境について考える。 ④ 危険から身を守るにはどうすればいいか考え、行動する。
学習したことをみんなに知らせる活動をする (事後指導)	① 地震が起きたときの教室の危険箇所や安全に生活するためのアイデアをみんなに知らせるための作業をする。

7. 体験活動や他の教育活動との関連



8. 本時の学習

- (1) 目標 地震から身を守るにはどうすればよいか考える。
 (2) 評価規準 地震から身を守るにはどうすればよいか考えることができる。
 (3) 学習の展開

	学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	○支援◎評価
導入	1. 学校の中の危険だと思った場所を発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 教室にいるとき地震から身を守るにはどうすればよいだろう。 </div>	○地震が起きたとき、学校の中で危険だと思った場所はどこですか。	○なぜ危険だと思ったのか理由も述べさせる。
展開	2. 地震が起こったら教室はどうか想像する。 3. 安全な教室にするためにどうしたらよいか考える。 4. 机から離れた場所で地震が起きたらどうするか考える。	○教室の中で、地震が起きた時に危ないと思う場所や物を発表しましょう。 ・窓のそば（運動場側、廊下側） ・テレビの下 ・電子オルガンのそば ・蛍光灯の下 ・扇風機や花瓶 ・ガラスが割れる。 ・テレビが飛んでくる。 ・物が落ちてくる。 ◎安全な教室にするためにどうしたらよいか考えましょう。 ・高いところにものを置かない。 ・テレビの場所をかえる。 ・テレビをしっかりと固定する。 ○机から離れたところで地震が起きたらどうしますか。 ・すぐに自分の机の下に隠れる。 ・さっと頭を守る。	○危ないと思う場所や物に印をつけさせる。 ○理由も発表させる。 ○個人で考えた後、ペアで話し合い、お互いの考えを聞く。 ◎地震から身を守るにはどうすればよいか考えることができたか。 ○なぜ、そう動いたのか考えを聞く。
まとめ	5. 本時のまとめをする。 6. 次時の予告	○今日の学習で分かったことや思ったことを発表しましょう。	

(4) 準備物

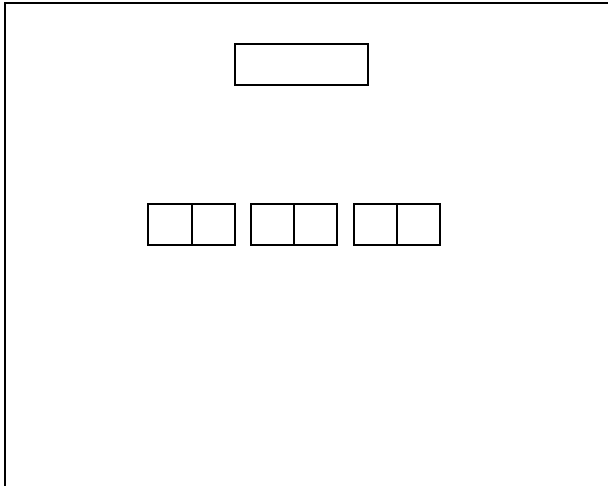
- ・危険箇所のマーク ・短冊

(5) 板書計画

1 / 3 1 じぶんのみをまもろう

きょうしつで、じしんからみを
まもるにはどうしたらいいだろう

きけんなところ



(教室の配置図)

↓
けがをする
うごけなくなる
ひなんできない

あんぜんなきょうしつにする
にはどうすればいいだろう

- ・テレビのぼしよをかえる。
- ・たかいところにもものをおかない。
- ・ものがうごかないようにとめる。

じしんがおきたら

- ・あたまをまもる。
- ・すぐにつくえのしたにかくれる。

まとめ